

# 映画：マジンガーZ対デビルマン1973年

『マジンガーZ対デビルマン』（マジンガーゼットたいデビルマン、英文:Mazinger VS Devilman）は、1973年7月18日に東映まんがまつりの一編として公開された日本のアニメーション映画。

【概要】

共に永井豪が原作を担当したテレビアニメ、『マジンガーZ』と『デビルマン』のクロスオーバー作品。世界観については『マジンガーZ』がベースとなっており、そこに本作公開時点では放映終了していた『デビルマン』のデビルマンらがゲスト出演する形となっている。『マジンガーZ』の劇場オリジナル作品としては本作が初であると同時に、今日では定番となっているテレビアニメの劇場公開オリジナル作品の先駆けでもある。本作以前のヒーローものでのクロスオーバーは、『帰ってきたウルトラマン』におけるウルトラマン・ウルトラセブンの登場や『仮面ライダーV3』での仮面ライダー1号・仮面ライダー2号の登場といったシリーズ内での登場や、『キングコング対ゴジラ』（怪獣対怪獣）のような同ジャンルでの共演などがほとんどであったが、本作では巨大ロボットと変身ヒーローという異色の組み合わせとなっている。以下のロボットアニメ（『マジンガーZ』や『ゲッターロボ』など）はフジテレビ系列で統一されているが、本作の『デビルマン』だけがNET系列の作品であり、実現は難しいと思われていた。しかし、『デビルマン』のテレビ放送が終了済みであったことや原作者の希望でNET系側からの認可も降り、実現することになった。その後、局の組み合わせで『UFOロボ グレンダイザー対鋼鉄ジーグ』の企画もあったが実現せず、その代わりに作られたのがフジテレビ系列で統一された『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』である。本作のもう一つの見どころとして、テレビ版に先駆けてのジェットスクランダーの登場が挙げられる。以降の劇場版マジンガーシリーズでは、テレビ版を先取りした展開が恒例となる。本作に登場するジェットスクランダーは尾翼のマークが「Z」であるなどテレビ版とデザインが異なり、翼のポジションもマニュアル操作（テレビ版はオートマチック方式）である。『デビルマン』側においてもシレーヌのデザイン設定がテレビ版と異なるほか、デビルマン・不動明の設定もテレビ版より原作に近いものになっており、魔将軍ザンニンが「悪魔の秘密を知り、悪魔の能力を得た不動明、いやデビルマン」と発言するほか、シレーヌが光子力研究所を襲撃する際の台詞も原作のものを引用しており、明も「デーモン・ハンター」を自称している。企画には、双方のテレビ作品をプロデュースした有賀健のほか、『マジンガーZ』の第2話・第6話・第13話を演出した勝田稔男が企画部に配属されて初のプロデュースを担当した。勝田は本作の後も同じく永井作品『キューティーハニー』で初のテレビ作品プロデュースを経て、永井のロボットアニメ『ゲッターロボ』・『ゲッターロボG』・『UFOロボ グレンダイザー』をプロデュースし、『マジンガーZ』の横山賢と双璧をなす東映動画ロボットアニメのプロデューサーとなる。なお、タイトルでは「対」となっているが、作中には兜甲児と不動明による主人公同士のバイクレースが描かれるのみで、マジンガーZとデビルマンの対決は描かれていない。しかし、本作以降は実際に対決しない内容であってもタイトルに「対」もしくは「VS」と付けられるクロスオーバー作品が、多々登場するようになった。予告編完成前に公開された「特報」（双方ともナレーターは野田圭一が担当した）では、映画では登場しなかった機械獣と妖獣が登場するほか、パイルダーを操縦している甲児がゴーグルを降ろしていないNG版が存在する。マジンガーZが機械獣にプレストファイヤーを浴びせる場面や、デビルマンが妖獣に膝蹴り・チョップ・デビルビームを浴びせる場面は、双方のオープニングアニメーションから流用している。また、「特報」のBGMでは、本編では使用されなかったテレビ版オープニングテーマ「マジンガーZ」のインストルメンタルを使用している。出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

【製作・スタッフ】

- 製作： 登石雋一、フジテレビ（マジンガーZ）  
NETテレビ（デビルマン）、東映
- 製作担当： 茂呂清一
- 企画： 有賀健、勝田稔男
- 原作： 永井豪とダイナミックプロ
- 脚本： 高久進
- 音楽： 渡辺宙明（マジンガーZ）、三沢郷（デビルマン）
- 原画： 奥山玲子、金山通弘、小田克也、木野達児  
菊池貞雄、窪詔之、小松原一男、白土武、中村一夫  
森英樹、小林敏明、小川明弘、坂野隆雄、薄田嘉信
- 動画： 服部照夫、阿部隆、長沼寿美子、山田みよ
- 背景： 勝又淑、赤保谷アイ子、勝俣希公美子  
柿沼雅人、福田和矢、佐野光成
- 演出助手： 遠藤勇二
- 製作進行： 吉岡修
- 美術監督： 浦田又治
- 作画監督： 角田紘一
- 演出： 勝間田具治

2021.05.29

# 映画：マジンガーZ対暗黒大將軍

## 【製作・スタッフ】

- 製作： 登石隼一、東映
- 製作担当： 茂呂清一
- 企画： 有賀健、籾野義文
- 原作： 永井豪とダイナミックプロ
- 脚本： 高久進
- 作画監督： 角田紘一
- 原画： 奥山玲子、森英樹、木野達児、金山通弘、小田克也、阿部隆、小松原一男、森下圭介、小泉謙三、飯野酷、津野二郎
- 動画： 小川明弘、小林敏明、坂野隆雄、服部照夫、薄田嘉信、田村晴夫、山田みよ、長沼寿美子、久保寺輝彦、白川忠志
- 演出助手： 遠藤勇二
- 製作進行： 佐伯雅久
- 録音スタジオ： タバック
- 現像： 東映化学
- 演出： 西沢信孝

# 1974年

『マジンガーZ対暗黒大將軍』（マジンガーゼットたいあんどくたいしょうぐん 英文：Mazinger VS. Dark General）は、1974年7月25日に「東映まんがまつり」にて上映された日本のアニメーション映画作品。キャッチコピーは「テレビでは見られないグレートマジンガー」「七つの軍団を率いて暗黒大將軍の総攻撃が始まった」「ゆけ! マジンガーZ 戦え! グレートマジンガー」

## 【概要】

テレビアニメ『マジンガーZ』の映画オリジナル作品第2弾。本作では、次作『グレートマジンガー』より主人公・剣鉄也とグレートマジンガーをはじめとするキャラクターたちが登場しており、『マジンガーZ』のテレビ版最終回を先取りした展開となっている。公開当時人気絶頂であったアイドルグループのフィンガー5にあやかり、この夏のまんがまつり興行は「フィンガー5と遊ぼう! 東映まんがまつり」と銘打たれ、フィンガー5の出演映画『フィンガー5の大冒険』がメインに据えられる形で本作が組み込まれている。グレートマジンガーの頭部の形状は講談社の「テレビマガジン」誌上で（「マジンガーズクラブ」会員証のデザインとして）いち早く紹介されていたものの名称までは明らかにされておらず、当時の児童はクライマックスに颯爽と現れたグレートの姿に衝撃を受けることとなった。これは、メディアミックスの走りともいえるべき前代未聞の交代劇である。なお、タイトルと裏腹にマジンガーZと暗黒大將軍が直接対決する場面は無い。また、予告編ではZと戦闘獣軍団が中心になり、グレートマジンガーはシルエットのみ登場する。マジンガーZ側の支援ロボットは、前作『マジンガーZ対ドクターヘル』（テレビプロウアップ版）に引き続きボスロボットが登場するほか、劇場版で初めてダイアナンAが登場する。この後、ボスロボットは次作『グレートマジンガー対ゲッターロボ』にも登場するが、ダイアナンAは2年後の1976年夏興行作品『グレンダイザー ゲッターロボG グレートマジンガー 決戦! 大海獣』まで登場しない。

## 【ストーリー】

ある日、世界各国の主要都市を謎の巨大ロボット群が襲撃する。それは、ミケーネ帝国の暗黒大將軍によって送り込まれた戦闘獣軍団の先発隊だった。ニューヨーク、ロンドン、パリ、モスクワを壊滅させたその魔の手は、日本にも伸びていた。東京への襲撃に際し、兜甲児はマジンガーZで出動するが、新たな敵・戦闘獣の攻撃力は機械獣を凌駕しており、大苦戦を強いられる。何とか敵を退けて首都の壊滅は食い止めたものの、マジンガーZが大ダメージを受けたうえに光子力研究所も襲撃されてダイアナンAは大破し、兜シローが生死をさまよう重傷を負ってしまう。シローへの大量輸血による最悪の体調の甲児と、修理できないまま再出撃したマジンガーZの前に、獣魔將軍率いる戦闘獣軍団が迫る。死を覚悟した甲児の必死の防戦もむなしく、たちまち満身創痍と化したマジンガーZの窮地に、新たなる勇者グレートマジンガーが颯爽と現れる。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2021.06.13

<https://majingai.x.fc2.com>

# 映画：グレートマジンガー対ゲッターロボ

1975年

『グレートマジンガー対ゲッターロボ』（英文：Mazinger VS. Getta Robot）は、1975年3月21日に東映まんがまつりで上映された日本のアニメーション映画作品。

## 【概要】

『グレートマジンガー』（原作：永井豪）と『ゲッターロボ』（原作：永井豪、石川賢）のクロスオーバー作品。タイトルに「対」とついているが、『マジンガーZ対デビルマン』と同様、両者の直接対決が描かれているわけではない。各作品の設定ではグレートマジンガーが身長25m、ゲッターロボ（ゲッター1）は38mとサイズに差があるが、本作中では演出上、同等のサイズに描かれている。グレート側では『マジンガーZ対暗黒大將軍』では登場しなかった炎ジュンとビューナスAが映画初登場している。

## 【ギルギルガン】

円盤で地球に飛来した宇宙怪獣。金属を食べて成長し、姿を変えてゆく。

## 【第一形態】

恐竜のような体に蜘蛛のような6本の脚が生えている。両目から怪光線を放ち、口からは超合金ニューZをも溶かす緑色の溶解液を吐く。防御力はのちの形態より高い。また敵から攻撃を受けると亀のように首を引っ込めて無効化する。グレートマジンガーは繰り出す攻撃が全く通用しない上に両腕と片脚を失う大ダメージを受け、撤収を余儀なくされた。

## 【第二形態】

一定量の金属を摂取したことで、第一形態の背中を突き破って巨人のような上半身が現れた状態。体色は変化したが生きたままなので武器も怪光線と溶解液。ビューナスAとボスボロットこそ圧倒したものの、ゲッター1のトマホークブーメランで脚を切断されたり、グレートのマジンガーブレードを胸に突き刺された。

## 【最終形態】

第二形態が倒されそうになったため、円盤が自ら餌となって食われたことでさらに巨大化。下半身の第一形態部分が完全になくなり、二本脚の巨人タイプへと変化した。背中に生えた巨大な翼で飛行も可能となっている。武装は翼から放つ閃光、指先から放つビーム、尻尾による打撃、腰の左右に装備した巨大な鎌状のブーメランを使用する。しかしブーメランを投げると腰の付け根に弱点が露出し、この好機を見逃さず腰の付け根から進入したグレートとゲッター2により内部を破壊され、両目にマジンガーブレードを突き立てられた後にダブルサンダーブレイクとゲッタービームの同時攻撃を受け、空中へ逃げる途中で力尽きて爆死した。なお、第二形態で切り落とされた脚の断面や最終形態の体内の描写は機械的なものとなっている。後年のゲームソフトでもある『スーパーロボット大戦』でボスキャラクターとして登場し、さらに『第2次スーパーロボット大戦』以降はオリジナル形態のメカギルギルガンが登場している。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

<https://majingai.x.fc2.com>



2022.03.26

【興行】

二週間上映で配収3億6千万円、売店収入約1億円、最終的には5億円突破と見られる大ヒット。岡田茂東映社長が丸の内東映前で客の様子を見ていたら、子どもが劇場前に座り込み、泣きわめき、大暴れした挙句、母親を劇場に引きずり込んだ。感激した岡田は社内での"ジャリ"、"ガキ"という言葉を使用禁止にし「わが社では"コドモサマ"に統一する」と発表した。同時にこの年の夏休みのまんがまつりは、テレビで人気抜群のずうとるびの舞台や私生活を映画にした『ずうとるび 前進!前進!大前進!!』を目玉にマンガ4本をくっつけると話していたが、『ずうとるび 前進!前進!大前進!!』は番組前に出て『新幹線大爆破』の併映作になった。

【音楽】

本作のBGMは、『グレートマジンガー』『ゲッターロボ』両作品から流用され、新曲は作られなかったものの、渡辺宙明と菊池俊輔の音楽が同一作品内で使用されることになった。劇場予告編およびオープニングテーマには、「おれはグレートマジンガー」（『グレートマジンガー』OP）のバックコーラス（コロムビアゆりかご会）なしヴァージョンが使用された。同ヴァージョンは『ETERNAL EDITION ダイナミックプロフィルムズ File No.5&6 グレートマジンガー』に収録されている。なお、オープニング映像では、歌に水木一郎、ささきいさお、コロムビアゆりかご会がクレジットされているが、ささきいさおの歌は実際には使用されなかった。

【主な出演者】

科学要塞研究所  
剣鉄也：野田圭一  
炎ジュン：中谷ゆみ  
兜シロー：沢田和子  
兜剣造：柴田秀勝  
ボス：大竹宏  
ヌケ：加藤修  
ムチャ：緒方賢一  
早乙女研究所  
流竜馬：神谷明  
神隼人：山田俊司  
巴武蔵：西尾徳  
早乙女ミチル：吉田理保子  
早乙女博士：富田耕生  
(オープニング映像では「早乙姫」とクレジットされた)  
予告編ナレーター：柴田秀勝

【スタッフ】

製作：今田智憲  
企画：有賀健、横山賢二  
原作：永井豪・石川賢（ゲッターロボ）とダイナミック企画  
脚本：藤川桂介  
音楽：渡辺宙明（グレートマジンガー）、菊池俊輔（ゲッターロボ）  
原画：森利夫、富永貞義  
動画：堀村好子、長崎重信、寺司重信、渋谷早苗  
背景：勝又激、沼井信朗、阿部泰三郎  
演出助手：遠藤勇二  
作画監督：小松原一男  
演出：明比正行

1975年

映画：グレートマジンガー対ゲッターロボ



# 映画：グレートマジンガー対ゲッターロボ 空中大激突

『グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突』（グレートマジンガーたいゲッターロボジー こうちゅうだいげきとつ）は、1975年に東映まんがまつりで上映された日本のアニメーション映画作品。

## 【概要】

永井豪原作の『グレートマジンガー』と『ゲッターロボ』のクロスオーバー作品。本作では『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』のテレビ版と異なるムサシの最期とゲッターロボの交替劇が描かれている（ゲッタードラゴンのみ登場し、ゲッターライガーとゲッターポセイドンは登場していない）。またグレートマジンガー側では、テレビ版に先駆けてグレートブースターが登場している。グレート側の支援ロボットで登場するのはビューナスAのみで、『マジンガーZ対暗黒大將軍』以来登場していたボスロボット（およびボスたち三人組）が初めて登場せず、またTV本編で既に登場していたロボットジュニアも登場しない。なお英文タイトルは『Great Collision』で、直訳すると「大激突」となり、また「Great」はグレートマジンガーも意味しているため、珍しくゲッター側がタイトルに入っていない。

## 【光波獣ピクドロン】

謎の侵略者が満を持して最後に地球へ送り込んだ怪獣型ロボット。全身に光の膜を纏っており、敵のビーム攻撃を吸収して巨大化するという特異な性質を持つ。武器は口から放たれる光の矢と腕を伸ばしての電撃で、光の矢は体内に入ると爆発する仕掛けであり、グレートの装甲である「超合金ニューZ」も容易く破壊してしまう。グレートタイフーンで全身に纏っていた光が剥がれ落ちると、その下には機械獣や戦闘獣の様な怪獣型ロボットの正体を露にする。光の膜が剥がされ最大の武器である光の矢を失ってからは角からの電撃だけになってしまう。その角もグレートブーメランで切断されて丸腰となったところへドラゴンのダブルトマホークで首を落とされ、すかさず新兵器グレートブースターを撃ち込まれて爆死した。

## 【空魔獣グランゲン】

謎の侵略者が最初に地球に送り込んだ宇宙怪獣。武器は両目から放つ怪光線と両肩に装備したブーメラン。いきなり空中でゲッター1に抱きついて地上へ墜落させようと狙うが、寸前でオープンゲットされ振りほどかれる（この際、左腕と右脚を千切り飛ばされているが、ベアー号と激突する時には再生している）。ゲットマシン各個に襲い掛かる中で光線に目が眩んだムサシのベアー号と激突して共倒れとなり爆死した。

## 【結合獣ボンゴ】

謎の侵略者が2番目に地球に送り込んだ怪ロボット。戦闘機や戦車などを体に取り込んでいる。武器は両目から放つ怪光線と胸部の砲塔から放つ砲撃、両脚を分離して放つミサイル。バラバラにされても、各パーツが無事なら瞬時に元通りになる。ブースターの完成を待つグレートに代って出撃してきたビューナスAを圧倒するが、ジュンの危機に急ぎ駆けつけたグレートのサンダーブレイクを食らい爆死した。だがこの直後、ピクドロンの放った光の矢によってグレートの右腕が破壊、全てはピクドロンのグレートおびき寄せの罠だった。

## 【謎の侵略者】

地球に3体の怪獣を送り込んだ異星人。円盤から指令を送り操っていることを鉄也に看破され、ドラゴンのゲッタービームを浴びて動けなくなったところへ新兵器グレートブースターを撃ち込まれて円盤もろとも爆死した。劇中では特に関係性は語られていないが、前作『グレートマジンガー対ゲッターロボ』でギルギルガンを送り込んだ円盤の侵略者と同一の存在であることが当時の児童雑誌に語られている。尚、漫画『ダイナミックヒーローズ』では、『UF0ロボ グレンダイザー』の設定にありながら劇中には登場しなかったベガ星人の宿敵、「ダムドム星人」とあるとの解釈が披露されている。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

## 【キャスト】

科学要塞研究所  
剣鉄也:野田圭一  
炎ジュン:中谷ゆみ  
兜剣造:柴田秀勝  
兜シロー:沢田和子  
所員:矢田耕司

早乙女研究所  
流竜馬:神谷明  
神隼人:山田俊司  
巴武蔵:西尾徳  
車弁慶:八奈見乗児  
早乙女博士:富田耕生  
早乙女ミチル:吉田理保子  
予告編ナレーター:柴田秀勝

## 【スタッフ】

製作: 今田智憲  
企画: 有賀健、横山賢二  
原作: 永井豪、石川賢、  
ダイナミック・プロ

脚本: 藤川桂介  
音楽: 渡辺宙明、菊池俊輔  
原画: 友永秀和、葛岡博、  
森利夫

動画: 長崎重信、後藤紀子、  
山内昇寿郎、東田久美子

演出助手: 松浦錠平  
製作進行: 吉岡修  
作画監督: 小松原一男  
演出: 明比正行

# 映画：UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー

# 1976年

『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』（ユーフォーロボ グレンダイザー たい グレートマジンガー）は、1976年3月20日に東映まんがまつりで上映された日本のアニメーション映画作品。

## 【概要】

テレビアニメ『UFOロボ グレンダイザー』の映画化第2作であり、初の映画オリジナル作品。『グレートマジンガー』のキャラクターは登場しないため、従来のクロスオーバー作品とは雰囲気が異なり、『UFOロボ グレンダイザー』の外伝のエピソードとなっている。本作以前の東映まんがまつりで、既存のヒーロー同士が「対」のタイトルを冠した作品で共闘することがあったが、本作では文字通りグレンダイザーと敵の手に落ちたグレートマジンガーが対決する。なお英文タイトルは『Mazinger VS Grendiser』で、邦題とは逆にグレートの方が先であり、また『Great』がタイトルに入っていない。

## 【あらすじ】

遅々として進まない地球侵攻計画に業を煮やしたベガ大王は、スカルムーン基地にバレンドス親衛隊長を派遣した。バレンドスは兜甲児を捕らえ、自白装置で情報を聞き出した際にグレートマジンガーの存在を知る。ロボット博物館に展示されているグレートを強奪し、バレンドス自ら操縦して円盤獣と共にグレンダイザーに襲いかかった。しかし、脱出した甲児の助言によってグレートの機能を一時的に止めることに成功する。バレンドスは撤退を図るが、グレンダイザーと甲児が搭乗したグレートの逆襲で母艦もろとも葬られた。こうして、つかの間の平穏が戻った。

## 【登場した円盤獣】

### ジンジン

兜甲児をTFOごと捕らえた円盤獣。グレンダイザーとも対決するが、組み付いたところを反重力ストームで上空へ吹き飛ばされ、地面に激突して爆発した。

### グビグビ

バレンドスが操縦するグレートマジンガーを援護するために出撃。甲児が操縦するグレートマジンガーのアトミックパンチとブレストパンチで倒される。

### コアコア

3基ある核に空中のエネルギーが集まってできた円盤獣。ブレストパンチと反重力ストームでエネルギーを吹き飛ばされた後にグレンダイザーに体当たりを敢行するが失敗し、母艦もろとも自爆する。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

## 【スタッフ】

製作: 今田智憲

企画: 有賀健、勝田稔男

原作: 永井豪とダイナミック・プロ

脚本: 藤川桂介

原画: 友永秀和、湖川滋、木下勇喜

動画: 長崎重信、後藤紀子、月間恵美子、丹司道雄

演出助手: 松浦錠平

作画監督: 小松原一男

演出: 葛西治

2022.06.19

<https://majingai.x.fc2.com>

# 映画：グレンダイザー-ゲッター-ロボG グレートマジンガー- 決戦! 大海獣

# 1976年

<https://majingai.x.fc2.com>

## 【スタッフ】

製作： 今田智憲  
企画： 有賀健、小田克也  
原作： 永井豪、石川賢、ダイナミック・プロ  
脚本： 高久進  
演出： 明比正行  
作画監督： 木野達児  
美術監督： 浦田又治  
原画： 阿部隆、小川明弘、金山通弘、角田紘一、広田全、  
的場茂夫、森英樹、湖川滋、木下勇喜  
動画： 石山穂緒、薄田嘉信、金山圭子、小林敏明、坂野隆雄、  
田村晴夫、服部照夫、草間真之介、熊川正雄、平川やすし  
演出助手、製作進行：福島和美



『グレンダイザー-ゲッター-ロボG-グレートマジンガー-決戦! 大海獣』（グレンダイザー-ゲッター-ロボG-グレートマジンガー- けっせん だいかいじゅう）は、1976年7月18日に東映まんがまつりで公開された日本のアニメーション映画作品。上映時間は30分。キャッチコピーは「夏やすみに見られるぞ!」「大海獣ドラゴザウルスと、われらのロボット軍団の決戦!」

【概要】永井豪原作の『UFOロボ グレンダイザー』・『グレートマジンガー』・『ゲッター-ロボG』のクロスオーバー作品であり、劇場版マジンガーシリーズの連続通算第9作目（TV作品の上映を含む）。劇場版としては唯一、オリジナルの主題歌がレコーディングされ、主題歌の歌詞および劇中で「ロボット軍団」の呼称が用いられている。原作者は当初から劇場最終作を予定し自作のテレビアニメキャラクターを総動員させるつもりだったが、放送局の相異もあり実現しなかった。また、『鋼鉄ジーグ』に関しては「サイズ関係で遠慮（出演させない）して貰った」と語っている。『UFOロボ グレンダイザー』以外の作品は既に放送を終了しており、同作は時期的にはダブルスパイザー登場前後である。ボスに関してはゲスト出演していたこともあり重複しない様に兜甲児との絡みは控え目にされ、もう一人の戦友・剣鉄也との絡みがメインとなった。『マジンガーZ』からはボスポロット以外にもダイアナンAが登場している。なお英文タイトルは『Mazinger VS Seamonster』であり、直訳すると『マジンガー対海獣』で、グレンやゲッターがタイトルに入っていない。

## 【ストーリー】

行方を絶った海底調査船バチスカーフの捜索に乗り出した早乙女博士の要請により出動したゲッターチームは海中で巨大な怪物と遭遇する。それこそがバチスカーフを沈め、次々と航行中の船舶を襲っていた元凶ドラゴザウルスだった。脅威となる大海獣を倒すべく急遽グレンダイザー、グレートマジンガー、ゲッター-ロボGの三体にダブルスパイザー、ビューナスA、ダイアナンAを加えた「ロボット軍団」が編成される。しかし、仲間外れにされ功名に逸り抜け駆けつけたボスポロットがドラゴザウルスに呑み込まれてしまい、迂闊に攻撃できなくなる。果たして、三体のロボット軍団は強敵ドラゴザウルスを倒せるのだろうか？

## 【古代海獣ドラゴザウルス】

太古に死滅したと思われていた大海獣の生き残り。タンカー事故による重油流出など海洋汚染の影響で著しく巨大化し、いつしか石油を常食とするようになる。クラゲに似た形状をしており、傘状の本体と7本ある触手のすべてに龍のような顔がある。生命力が異様に強く、身体の一部を切断されても直ちに再生する。ミサイル攻撃も身体に埋まるだけで爆発せず効果がない。主に海中を徘徊するが、陸上でも活動可能で空を飛ぶことも可能。ボスポロットを呑み込むが、それをグレートマジンガーが救出した際、胃袋に石油が詰まっていることがわかる。これが攻略の決定的な糸口となり、ガスタンクを口に放り込まれた後にグレンダイザーのダブルハーケンとダブルスパイザーのダブルカッターで腹を切り裂かれると、とどめにゲッター-ロボGのシャインスパークを受けて石油に引火し大爆発を起こして絶命した。

体長：550メートル

体重：40万トン

※上記の数値は設定画に書かれていたもの。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』